

令和5年度

北区学校ファミリー  
事業報告書

東京都北区教育委員会

## はじめに

北区教育委員会教育長 清正 浩靖

北区は、平成15年度に「北区学校ファミリー構想」を策定し、他区に先駆けて、小中連携教育を推進してきました。

その成果を踏まえ、平成20年度には「小中一貫教育基本方針」を策定し、モデル事業を経て、平成24年度から「学校ファミリーを基盤とした北区の小中一貫教育」を全校で実施しています。現在、各サブファミリーが地域と一体となった特色ある教育活動に取り組むとともに、北区小中一貫教育カリキュラムを活用し、9年間を見通した教育を行っております。

本事業報告書では、各サブファミリーにおける1年間の交流や「学校ファミリーの日」の活動状況と、「学校ファミリーを基盤とした小中一貫教育」の具体的な推進状況が記されています。今後、それぞれのサブファミリーにおいて、推進の一助として活用してほしいと願っています。

さて、令和2年3月に策定された『北区教育ビジョン2020』では、取組の方向の一つとして、「0歳からの育ち・学びを支える」を掲げ、「地域と一体となった教育の推進」、「就学前教育・保育の充実」、「将来を見据えた小中一貫教育の推進」を図るとともに、小中一貫教育の牽引役としての小中一貫校の検討や、認定こども園の設置を行い、さらなる充実を図っています。

小中一貫教育については、令和6年4月の都の北学園開校に向け、神谷中サブファミリー3校で、神谷中サブファミリー施設一体型小中一貫校学校経営検討委員会及びカリキュラム検討委員会における検討、行事の合同実施、カリキュラムの検討等を通して、教育内容のより一層の充実を図るなど、一つ一つ丁寧に取り組んでいます。

そして、将来的には、北区における「小中一貫教育の発信源」として、その教育的成果を、他の区立小・中学校に活用することにより、北区全体の小中一貫教育の更なる充実・発展を図ります。

今後も、北区教育委員会は、0歳から義務教育終了までの一貫した子どもの育ち・学びの系統性・連続性を踏まえた教育・保育事業をより一体的に展開してまいります。

関係者の皆さまには、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

# 目 次

## I サブファミリー事業報告

王子桜中・王子小・東十条小・さくらだこども園	1
十条富士見中・王子第二小・王子第三小・王子第五小・十条小・ じゅうじょうなかはら幼	3
明桜中・王子第一小・豊川小・柳田小・としま若葉小	5
堀船中・堀船小・滝野川第五小	7
稲付中・梅木小・西が丘小・うめのき幼	9
赤羽岩淵中・赤羽小・岩淵小・なでしこ小・第四岩淵小	11
桐ヶ丘中・桐ヶ丘郷小・袋小・八幡小・赤羽台西小	13
神谷中・神谷小・稲田小	15
浮間中・浮間小・西浮間小	17
田端中・滝野川第四小・田端小	19
滝野川紅葉中・滝野川第二小・滝野川第三小・谷端小・滝野川もみじ小・ たきさん幼	21
飛鳥中・滝野川小・西ヶ原小	23

## II 参考資料

北区学校ファミリー構想概要	25
---------------	----

# 王子桜中サブファミリー（王子桜中・王子小・東十条小・

さくらだこども園）

## 1. 交流・連携の方向性

### (1) 研究主題

「自ら問いをもち、主体的に学ぶ子どもの育成  
－課題を追究する授業デザイン－」

### (2) 研究仮説

各教科の特性に応じて、①単元全体を見通した授業構想を工夫するとともに、子どもが②自ら問いを深める指導を工夫することにより、子どもたちは自ら学ぶ意欲を高め、進んで考え、表現する力をよりよく伸ばすことができるであろう。

### (3) 目指す子どもの姿(王子桜中サブファミリー共通)

- 自分の問いをもち、進んで考えようとする子ども
- 学び合いを通して、問いを広げ深めようとする子ども
- 学びの過程を振り返り、新たな問いをもつ子ども

### (4) 問いを大切にしたい授業とは

学習の過程で子どもの内に問いが生じているかどうかは、主体的な学びを実現するための原動力である。また、自分の問いを広げ深めていくためには、対話的な学びの場を工夫し充実させる必要がある。さらに、自ら学びを振り返る場を学習過程に適切に位置付けることにより、子どもに新たな問いを促し深い学びへ誘うことができる。

### (5) 王子桜中サブファミリー【授業スタンダード】

#### I 単元全体を構想した授業設計の工夫

- ① 単元全体を通して、子どもに育てたい力（身に付けさせたい力）を明確にする。
- ② 単元全体の中で中心となる教師の発問を明確にする。
- ③ 単元を通して、子どもの問いができるだけ連続するように工夫する。
- ④ 時間や内容のまとまりを意識した学習評価を工夫する。

#### II 子どもの問いを深める指導の工夫

- ① 自分なりに考える時間や友達と考えを共有する時間を確保する。
- ② 子ども同士の学び合い、教え合いを取り入れた学習過程を工夫する。
- ③ 子どもの問いを促す教師の発問を工夫する。
- ④ 子どもが自分の言葉で学びを振り返る場を設定する。
- ⑤ 子どもの主体的な追究を促す学習課題や課題提示を工夫する。

## 2. 具体的な活動

### (1) 調整や話し合い・サブファミリー全体での活動

実施日	会場校	取組	主となる活動内容
4月26日 (水)	王子桜中学校	ファミリー 研修会	・研究方針の確認と各分科会研究
5月24日 (水)	東十条小学校	ファミリー 研修会	・6/14 指導案検討および情報交換
6月14日 (水)	東十条小学校	第1回学校 ファミリーの日	・小学校における研究授業
8月30日 (火)	王子小学校	ファミリー 研修会	・9/28 研究授業の指導案検討等
9月27日 (水)	王子小学校	第2回学校 ファミリーの日	・小学校における研究授業
12月20日 (水)	王子桜中学校	ファミリー 研修会	・1/24 研究授業の指導案検討
1月24日 (水)	王子桜中学校	ファミリー 研修会	・中学校における研究授業

### (2) その他の交流活動

- 通年 登下校時のあいさつ活動 (王子小・王子桜中)
- 通年 合同避難訓練 (王子小・王子桜中)
- 4月 引き取り訓練 (王子小・東十条小・王子桜中)
- 王子桜中学校職場体験の職場体験先として依頼 (王子小・東十条小)
- 王子桜中学校職場体験発表会への小学生の参加 (王子小・王子桜中)
- こども園での中学生職場体験 (保育体験) 学習 (さくらだこども園・王子桜中)
- 小中連携学校図書館フェスティバル (王子小・王子桜中)

## 3. 成果と工夫した点

### <成果>

- それぞれの校種の教員が幼・小・中での成長の過程を知ることで発達段階における保育・学習指導の相互理解に基づいた研究授業を実践できた。3校1園が研究主題を基に「自ら問いをもつ」児童生徒の姿を意識した教材開発、教具の工夫、学習形態の工夫を学び合うことができた。
- 「問い」を学びの土台として位置付け取り組んだことで、グループでの対話や自己内対話を通して「問い」に迫ろうとする協働的、主体的に学びに向かう児童生徒の姿が見られた。

### <工夫した点>

- 王子桜中サブファミリー【授業スタンダード】を視点として、単元全体を構想した授業設計や子どもの問いを深める指導の工夫について研鑽することができた。また思考ツールや動画など、「きたコン」を効果的に活用した授業実践に取り組むことができた。

## 4. 課題と改善の方向性

- 各分科会において活発な意見交流ができたものの、それらをファミリー全体で共有するにあたり課題が残った。時間的な制約がある中で、報告内容が断片的になってしまい、自分が所属する分科会以外の研究内容について共有財産とすることができなかった。今後は全体会の中で分科会をピックアップして授業実践の具体から分科会での議論内容までを取り上げて紹介し、教科を問わず「問い」に向かう授業デザインを探求していきたい。
- 分科会で授業案、発問構成等を吟味したことは、どの授業においても児童生徒の学びの深まりに繋がった。各校園内においてもこのような機会をもてるとさらに良いのではないかと意見が挙がった。

# 十条富士見中サブファミリー

(十条富士見中・王子第二小・王子第三小・王子第五小・十条小・じゅうじょうなかはら幼)

## 1. 交流・連携の方向性

- ・北区教育ビジョン2020の理念を踏まえ、十条富士見中サブファミリーの育てたい子ども像を「自ら考える子ども」「心豊かな思いやりのある子ども」「健康でたくましい子ども」とし、『知』『徳』『体』のバランスのとれた育成を目指す。
- ・十条富士見中サブファミリーにおける特色ある取り組みのコンセプトを「ICTの活用」とし、研究主題を「主体的・対話的で深い学びの実現を図るための指導の工夫～『きたコン』を活用した思考力・判断力・表現力の育成～」とする。
- ・幼稚園・小学校・中学校の幼児・児童・生徒の発達や連続性を配慮し、小・中一貫カリキュラムを活用した幼・小・中一貫教育の推進をする。
- ・幼児・児童・生徒の交流学习の実施や地域行事を活用した連携活動の推進をする。

## 2. 具体的な活動

### (1) 調整や話し合いの実施

- ・校園長連絡会（年度当初、年度末に計2回開催）
- ・運営委員会（副校長・教務主任等）
- ・養護教諭連絡会など必要に応じた教員連絡会

### (2) サブファミリー全体での活動

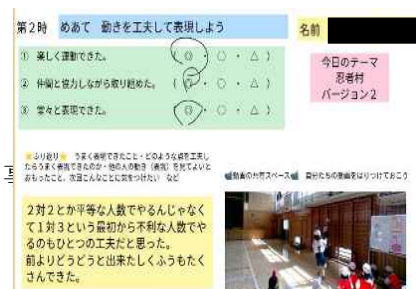
- ・授業研究会（年間3回） 6月28日（水）9月27日（水）1月24日（水）
- ・指導案検討会（年間3回） 6月8日（木）8月29日（火）1月12日（金）
- ・つまずき0プラン検討会 9月27日（水）
- ・小学生の中学校体験入学 12月7日（木）
- ・幼児の中学校訪問事業  
リレー練習会 凧揚げ大会 10月5日（木）1月11日（木）
- ・幼稚園での中学生職場体験 5月30日（火）～6月1日（木）
- ・図書POP作品交流事業 新中学一年情報交換会 1月 3月
- ・幼児の小学校訪問事業  
幼児の小学校交流・体験給食・体験入学 9月21日（木）2月6日（火）  
プール体験・運動会練習 7月14日（金）10月13日（金）  
展覧会作品交流 12月15日（金）

### (3) 「学校ファミリーの日」の授業研究会（年間3回）

7つの分科会に分かれ、ICTを活用した研究授業を実施。

#### ・第1回授業研究会 十条小学校

第1回の協議会ではオンラインで行った学習指導案の前検討を踏まえた、ICTの活用方法を中心に協議を進め、思考力・判断力・表現力を育成するための『きたコン』の活用について理解を深めることができた。



『きたコン』を活用した児童の振り返り

・第2回授業研究会 十条富士見中学校

第2回の協議会では、夏季休業中に行った集合研修での指導案検討を踏まえ、小学校と中学校の接続を意識した、思考力・判断力・表現力を育成する授業について議論できた。

全体会では、じゅうじょうなかはら幼稚園園長、高沢ゆみか先生による講演会「幼稚園の教育について」を実施し、幼稚園の教育活動を知ること、子どもの発達や円滑な接続について教員の意識が高まった。



きたコンを使った保健体育の授業の様子 幼稚園の教育の様子

・第3回授業研究会 王子第五小学校

第3回の研究授業は感染症拡大防止のための学年・学級閉鎖により、協議会のみ実施となった。協議会ではオンラインで行った学習指導案の事前検討踏まえ、7つの分科会で『きたコン』のよりよい活用方法について話し合い、全体会で議論された活用方法・課題について、全教員で共有することができた。



きたコンを使った音楽の授業の様子 幼児体験入学の様子

### 3. 成果と工夫した点

十条富士見中ファミリーでは、これからの新しい教育の流れを受けて、前年度から特色のある取組のコンセプトを「ICTの活用」とし、「主体的・対話的で深い学びの実現を図るための指導の工夫」を目指してきた。今年度はさらに「思考力・判断力・表現力の育成」を目指し、授業改善を行うために、新たに研究授業の指導案検討を全3回実施した。時間確保のために、うち2回はオンラインによる研修とし、1回は十条富士見中学校での集合研修とした。

### 4. 課題と改善の方向性

北区では一人1台端末の『きたコン』を導入し、まもなく3年目が終わる中で、小学校・中学校共に、『きたコン』の使用に慣れ始め、様々な場面で教員・児童・生徒が活用することができるようになってきた。効率的に『きたコン』を活用した思考力・判断力・表現力の育成を行うために、指導案検討をファミリーの教員で事前検討することで、児童・生徒一人一人が深い学びを行うための手立てを見つけ出すことができ、各教員の授業力向上に役立った。前年よりも授業の質が向上し、改善の方向性に間違いはなかった。課題としては指導案の検討をより効率的に行うための工夫を考えていく必要がある。

# 明桜中サブファミリー（明桜中・王子第一小・豊川小・柳田小・としま若葉小）

## 1 交流・連携の方向性

【育てたい子供像】について

- ・分かる喜びを感じ進んで学ぼうとする意欲をもつ子供
- ・じっくり考え自分の考えを豊かに表現できる子供
- ・相手を思いやり、人のために進んで行動しようとする子供

【協議会のテーマ】について 「持続可能な社会づくりに向けた教育の推進」

- ・持続可能な開発目標（SDGs）に関連した課題を設定し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。
- ・各教科・特別支援学級の特徴を生かした授業のあり方について。  
（わかる、関心・意欲を高める、考える、言語活動、体験活動、課題発見・解決、ICTの活用、TT・少人数の効果を生かした授業等）

## 2 具体的な活動

（1）調整や話し合い

- 5月25日（木） 各校長、副校長がオンラインにて運営委員会を実施。  
①新組織顔合わせ ②役割分担 ③今年度の学校ファミリーの進め方について
- 6月14日（水） 王子第一小学校での授業分科会後、運営委員会を行った。
  - ・対面で話ができるようになって（元の形式に戻って）良い。
  - ・メンバーが入れ替わってきているが、今後もサブファミリーの9年間を見通した教育を実践をしていく。
  - ・SDGsに関しては、王子第一小学校も研究を進めているので、リードしていく。
  - ・明桜中サブファミリーの学区域は広い。地域によって学校の課題に違いがある。
- 6月中に明桜中学校で、北区基礎基本調査の結果を考察し、特につまずきが多かった設問について、7月に各小学校へつまずきゼロプラン小中一貫学力向上シートを送信する。その後、各小学校でつまずきの解決を図るための具体的な方策について考え、共通理解を図る。締め切りは9月上旬とする。
- 9月27日（水） としま若葉小学校での授業分科会後、運営委員会を行った。
  - ・サブファミリーとして、SDGsという社会的課題について学び、自分事として考えるきっかけができた。
  - ・小中一貫として育てたい子ども像を明確にして取り組んでいきたい。
  - ・特別支援分科会で中学卒業後の進路を共有し、小中連携の大切さを感じた。

【講師挨拶】 荒川区立第三峡田小学校校長 伊藤 英夫 先生

- ・学校でできる取り組み例として、階段に「子供に伝わる言葉」を掲示する。
- ・小中連携で地域のSDGsについて考えていく必要がある。
- ・疑問の答えがでなくても思考サイクルを作ることが大切である。
- 1月 「6年生に向けての学校紹介」についての日程調整。
- 3月 運営委員会にて、今年度の成果と課題、次年度計画の確認を行う予定。



## (2) サブファミリー全体での活動

### ○ 6月14日(水) 学校ファミリーの日【王子第一小学校】

#### 【全体会】

①組織構想図について ②実施計画書について ③今年度の活動計画について

#### 【公開授業・分科会協議】

- ・ 各教科、領域に関する課題について協議した。
- ・ S D G s に関する情報交換を行う。
- ・ タブレットの活用法についての情報交換も行った。

### ○ 9月27日(水) 学校ファミリーの日【としま若葉小学校】

#### 【公開授業・分科会協議】

- ・ としま若葉小学校で作成した分科会ごとの指導案をもとに、各教科、領域における S D G s との関わりについて意見交換を行った。
- ・ どんな教科、領域でも S D G s を取り入れた授業が可能であることを共通理解できた。

### ○ 1月18日(木) 学校ファミリーの日【明桜中学校研究発表会】

- ・ 令和4・5年度北区教育委員会研究協力校研究発表会として研究の成果を発表。  
「人権尊重の視点に立った学校づくり ～自分を大切に、互いに認め合うことができる、思いやりのある生徒の育成を目指して～」というテーマのもと、人権教育推進に関する内容であった。

## 3 成果と工夫した点

昨年度に引き続き、S D G s の取組を教育活動に位置付けていくことを共通理解し、各校での取組について情報交換ができたことが一定の成果といえる。昨年度の課題に挙げた「講師を招聘して S D G s に関する学習会や指導助言の機会を設定すること」は実現することができた。リサイクル活動、節電・節水、学校や地域をきれいにする活動、給食を残さず食べて残飯を減らす活動、飼育・栽培活動を通して生命の大切さを学ぶ学習、男女平等・共同参画についての学習など、S D G s を意識した取組がきっかけとなり、学校だけでなく家庭や地域社会でもできることはないかと活動の幅を広げていきたい。様々な教科、領域や学校行事でも S D G s を当てはめて学習することが可能であることを実感することができた。

## 4 課題と改善の方向性

今年度の反省を受け、次年度は以下の3点について実施していく。

- ① 分科会ごとに事前の指導案検討を行い、年間3回の研究授業を実施する。
- ② 各教科の年間学習指導計画の中で、S D G s に関する学習がどの単元で、どのように組み込めるかを各校で検討し計画を立てる。
- ③ 各校での取組について、運営委員会のメンバーが中心となって情報を共有し、年間指導計画のアップデートを推進していく。

今後も、普段の授業に S D G s の視点を取り入れながら、子どもたちの意識をさらに高めていきたい。

# 堀船中サブファミリー（堀船中・滝野川第五小・堀船小）

## 1. 交流・連携の方向性

### 【年間 研究主題】

「児童・生徒のよりよい人間関係を基盤とした授業づくり」  
～児童・生徒相互のかかわり合いの場を整えて～

### 【研修テーマ策定の背景と検討の視点（令和3年度からの継続）】

- ・授業に「児童・生徒相互のかかわり合いの場」を意図的に設定し、整えていく。



児童・生徒は、互いに思いや考えを受容するようになり、安心感が醸成され、思いや考えを自由に表現するようになるという仮説を立て、対話的な学びの実現及び主体的な学びの具現化に向け、小・中学校の教員が情報交換等をとおして学び合うために、合同教員研修会や合同研究会を実施し、小・中学校の学習指導に対する教員間の共通理解を深め、指導法の接続を図る。

また、学力向上と密接な関係にある生活習慣の改善等に向け、体育・健康教育を推進する。

## 2. 具体的な活動

### (1) 調整や話し合い

4月13日（木） 15：30～ 運営委員会 堀船中学校にて

- ・今年度の研修実施方策及び計画検討
- ・研修主題は継続するものとし、各回は主題を踏まえた授業研究を行うこととした。

### (2) サブファミリー全体での活動

【第1回】令和5年6月14日（水）13：50～16：15 堀船中学校

- ・研究授業 ※ 事前の申し合わせにより保健体育科の授業を盛り込むこととした。

[国語科] 1年2組 堀口 千尋 主任教諭

[理科] 2年1組 岩本 康弘 主幹教諭

[保健体育科] 2年2組 杉政 健 主幹教諭、岩本 朋華 教諭

- ・全体会

「小中連携で共通実践できる4人組の協同学習Ⅱ」と題して、昨年度の研修を踏まえ、所属の異なる小・中学校教員で4人組をつくり、「正論を言う係」「反対意見を言う係」「沈黙打破係」「トリックスター（突拍子もない意見を言う係）」の各係を分担し、ロールプレイングによる話し合い活動をとおして、より良いコミュニケーションの関係づくりについて、研修を深めた。

【第2回】令和5年9月27日（水）13：45～16：30 滝野川第五小学校

- ・研究授業

[保健体育科] 2年1組 矢澤 恵美 主任教諭

[保健体育科] 4年2組 本木 惇太 教諭

[保健体育科] 5組 三宅 奈那 教諭

- ・全体会

東京ヴェルディ普及コーチを講師としてスポーツプログラム指導講習を実施。

幼児や小中学生を対象に実施するスポーツプログラムのコンテンツを共有した。

参加の教職員は運動着で仲間作りの運動遊びやボッチャやゴールボールなどの障害者スポーツに終始和やかな雰囲気でき取り組むことができ、指導技術の研修を通じて交流を深めることもできた。

【第三回】令和6年1月24日（水）13：45～16：25 堀船小学校

・研究授業

[体育科] 1年3組 丸山 菜々子 教諭

[算数科] 3年 増田 奈々子 主任教諭、春日 優華 主任教諭  
酒井 信 教諭

[体育科] 4年2組 石塚 理栄子 主任教諭

・全体会

各教科のグループに分かれて、協議会を行った。グループ協議では、授業の2つ視点に沿って、「良かった点」「改善点」等の意見を交流し合い、授業改善が図れるようにした。その後、講師「柴野 晃一郎 先生」から授業についての指導・講評を、そして「学習指導要領の考え方に沿った授業の在り方について考える」をテーマとしたご講演をいただき、全体で研修を深めることができた。

### 3. 成果と工夫した点

(成果)

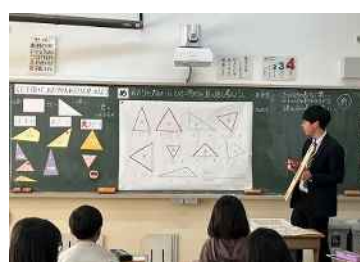
令和3年度からの研修主題を継承し、今年度の研修をスタートさせた。継続的にご指導いただいている伊藤康嗣先生に第1回（堀船中学校主催）として、かかわり合いを深めるためのコミュニケーションについてご講演いただき、児童・生徒の相互のかかわり合い方を意識しながら指導することについて理解を深めた。児童・生徒が対話的な学びをとおして、深い学びにつなげていくための工夫を進めることができた。

(工夫した点)

学習指導案の様式を統一し、年間をとおして、小・中学校の教員が共通の視点をもって授業観察ができるようにした。また、体育・健康教育を進める観点から、全ての回に体育科の授業を設定し、小中9年間をとおした体力向上、健康増進の指導について考えを深めることができるようにした。

### 4. 課題と改善の方向性

対話的な学びを充実させ、深い学びとしていくためにも「児童・生徒同士がかかわり合う場」を意図的に設けるとともに、例えば受容的に話を聴くといったコミュニケーション力についても指導していく必要がある。さらに深い学びとすることができる場の設定や指導の方法について、試行錯誤を重ねながら、研修を進めていきたい。



# 稲付中サブファミリー（稲付中・西が丘小・梅木小・うめのき幼）

## 1. 交流・連携の方向性

稲付中サブファミリーでは、「国際理解教育の推進」をねらいとし、以下の3点のことに重点を置き、小中一貫教育を進めてきた。

- ① 幼・小・中の学校教育の円滑な接続を実現させ、幼児・児童・生徒の系統的な学習と確かな学力の定着を目指す。
- ② オリンピック・パラリンピックレガシーアワード校での取組を通し、「豊かな国際感覚」の醸成をねらいとして、スポーツを愛し、平和な社会や共生社会の実現を見据えた世界に貢献できる資質・能力の育成を図る。
- ③ 幼・小・中での国際理解教育を通して、広く世界を見つめ、日本人としての自覚と誇りをもち、国際社会に主体的に貢献し、共生社会を共に生き抜いていく資質・能力を育てる。

今後も、幼小中の教員が継続的に連携・協働を進めたり、「つまずきゼロプラン」を作成したり、健康・教育相談についての情報交換を行ったりすることにより、幼小中の教育内容の相互理解・教員の指導力の向上・小1問題・中1ギャップ等の課題の解消に努めていく。

## 2. 具体的な活動

(1) 調整や話し合い（稲付中サブファミリー組織構成）

令和5年度

小中一貫教育担当校長 稲付中校長 小代表校長（梅木小）	
運営委員会 全校長・全副校長・幼副園長・各校担当主幹（主任） （必要に応じ、SF運営アドバイザー・指導主事・教育指導員他）	
授業研究部会 各分科会チーフ	①（国語、社会）②（算数・数学、理科）③（英語、外国語活動）④（図工・美術、技術・家庭、音楽、保健体育）⑤（道徳）⑥（生活・総合） 6分科会
稲付中学校 梅木小学校	西が丘小学校 うめのき幼稚園

(2) サブファミリー全体での活動（年間計画）

実施日	会場	取組	内容
5月11日 (水)	稲付中学校	運営委員会①	組織編成・年間計画の確認 6月学校ファミリーの日計画
6月14日 (水)	うめのき幼稚園 梅木小学校	授業参観 運営委員会②	研究参観・協議、全体会、分科会 分科会役割分担、連携授業の準備
8月30日 (水)	稲付中学校	授業研究分科会	指導案検討 つまずきゼロプランの検討

9月27日 (水)	稲付中学校	連携授業 運営委員会③	教科分科会ごとに連携授業、研究協議会、つまずきゼロプラン検討
12月19日 (火)	西が丘小学校	授業研究分科会	教科分科会ごとに指導案検討 つまずきゼロプランの活用
1月24日 (水)	西が丘小学校	連携授業 運営委員会④	分科会の連携授業、研究協議会 研究のまとめ（成果と課題）

### 3. 成果と工夫した点

- (1) ねらいを達成するための取組として6分科会に構成し連携をした。6月の授業参観、9月と1月の連携授業実施に向けて、ファミリーの一斉研修日を相談し設定した。幼小中に渡る子どもの成長の理解を深めながら、その実態に合わせた指導方法の検討や協議の観点を事前に確認してから当日の授業観察をするなど、子ども理解が進んだ。また、一人一人が当事者意識をもって授業研究に臨むことができた。
- (2) 年間3回学校ファミリーの日に幼・小・中学校の授業参観、授業研究を実施できた。特に昨年度の反省から指導案検討は対面で行い、そのことで指導案の内容の協議が深まった。授業後の協議会でも忌憚のない意見を交わせ、授業力向上にもつながった。
- (3) 特定公開フォルダー〈稲付中SF〉は、研究授業の指導案検討や分科会運営に関する内容に留まらず、様々な情報交換の活用の幅が広がり効果的である。今後も有効活用してしていく。
- (4) オリンピック・パラリンピック教育アワード校（3校）として、小学校で講演会を9月11日（月）に実施した。ロンドンオリンピック400mメドレーリレー銅メダリストの加藤ゆか選手と上田春佳選手を招聘し、今年度は6年生の水泳記録会と併せて実施したことで、実技での交流や指導もしていただき、昨年度よりも実りある実践となった。

### 4. 課題と改善の方向性

#### (1) 授業研究での課題と改善

「国際理解教育の推進」をねらいとして授業研究を進めてきたが、教科という大きな括りでは国際理解教育との関連は意識できるが、研究授業の本時案の中で、具体的に何が国際理解の推進と関連付くのか、あるいは、どう関連付けて授業をデザインしていったらよいかと悩むこともあった。今後も検討を重ねながらねらいに迫っていきたい。

#### (2) 研究推進についての課題と改善

3回の学校ファミリーの日では、3校の情報交換や共通理解を図りながら、研究を進め、連携を深めていくことができた。これからも情報交換や共通理解を図りながら、充実を図っていく必要がある。

また、今年度の課題をふまえ、研究主題と授業研究の関連を深めたり、組織の面では教科分科会を見直したりし、より稲付サブファミリーの研究が推進しやすい方向に改善を図っていく。

# 赤羽岩淵中サブファミリー

(赤羽岩淵中・赤羽小・岩淵小・なでしこ小・第四岩淵小)

## 1. 交流・連携の方向性

育てたい子ども像を「学びをつなぎ生きる力を育む子ども」と設定し、以下の内容で小中合同研修や交流活動に取り組んだ。

- ① 児童・生徒の学習状況等の情報交換を十分に行い、小学校入学から中学校卒業までの一貫した指導に取り組む。
- ② 授業研究では、北区小中一貫教育カリキュラムに基づき、各教科分科会の授業計画と実践を通して、9年間を見通した小中学校の連続性のある指導を行う。
- ③ 小中一貫教育の一環として、児童・生徒と保護者・地域と連携した小中合同引き渡し訓練（5月2日）を実施する。保護者の引き取りの仕方や兄弟の引き取り手順の確認及び、登下校の危険個所、被災時の待ち合わせ場所等具体的に確認する。

## 2. 具体的な活動

### (1) 調整や話し合い

- サブファミリー運営委員会（各校校長）年4回行い、活動方針の決定や3回の学校サブファミリーの日の内容や各学校間で必要な調整の確認を行った。
- 9月27日サブファミリーの日に小中学力向上委員会として、研究協議と学習のつまぎや児童の実態を確認し、話し合うことができた。また、2月14日に中3小6担当連絡会を赤羽岩淵中学校にて開催した。サブファミリー校の児童・生徒の状況について、情報交換を行った。
- 研究分科会  
国語部会、社会部会、算数・数学部会、理科部会、外国語活動・英語部会、体育・保健体育部会、音楽・図工・美術・技術・家庭部会、特別支援部会・養護部会、道徳部会の9分科会を設置し、全教員が分科会に所属して企画・運営を行った。特に、ICTの活用について話し合い、学びの連続性を確認した。また、小学生と中学生の交流を推進し、展覧会作品交流展示や学校行事では、教員の交流もはかれた。

### (2) サブファミリー全体での活動

- 第1回サブファミリー 全体会・各教科部会打ち合わせ  
令和5年6月14日（水）午後1時45分赤羽岩淵中学校会場  
全体の研究の進め方や各分科会の職員を紹介し、1年間の研究・組織を確認した。
- 授業研究分科会及び研究協議会について
  - ・ 第1回サブファミリー 授業研究協議会（北区学校ファミリーの日①）  
令和5年6月14日（水）午後1時45分開始 赤羽岩淵中学校会場
  - ・ 第2回サブファミリー 授業研究協議会（北区学校ファミリーの日②）  
令和5年9月27日（水）午後1時45分開始  
赤羽小・なでしこ小・第四岩淵小・赤羽岩淵中で9分科会毎、各小・中学校会場
  - ・ 第3回サブファミリー 授業研究協議会（北区学校ファミリーの日③）  
令和5年1月24日（水）午後1時45分 開始

- 赤羽小・岩淵小・なでしこ小で9分科会毎、各小学校会場
- ・第4回サブファミリー 全体会・各教科部会まとめ発表会  
令和6年2月14日（水）午後3時00分 開始 赤羽岩淵中学校会場  
各分科会のまとめを発表し、1年間の研究成果を全員で共有した。

○ 防災・安全教育について

- ・小中合同引き渡し訓練実施 令和5年5月2日（火）13：30 開始  
赤岩中サブファミリーの中学校と各小学校で同時に実施した。
- ・第1回サブファミリー連絡協議会  
令和5年7月14日（金）午後3時30分 開始  
赤羽小学校会場 赤羽警察署管内の状況や夏休みの生活や課題について
- ・第2回サブファミリー連絡協議会  
令和5年12月18日（木）午後3時30分 開始  
なでしこ小学校会場 赤羽警察署管内の状況や冬休みの生活や課題について

### 3. 成果と工夫した点

- ① 9分科会を設定し、小中が連携した授業研究を推進している。各分科会で教科ごとに小学校から中学校への学習の流れを意識することや、つまづいている項目を洗い出し、小学校教諭と中学校教諭が話し合い、内容を深化させることができた。
- ② 小学校入学から中学校卒業までの一貫した流れの中で、きたコンをはじめ、ICT機器の活用が今後より重要であることを、全ての分科会で活用状況の意見交換を行なった。生徒の活動の視点で、文字入力から、意見交換や自身の考えやグループでの意見発表時の活用、ソフトウェア機能を使った作品やプログラミングなど幅広い活用方法が報告され、小中一貫教育の流れを感じ取ることができた。また、ICT活用を苦手とする教員も、できる所からではなく、同じ手順・同じ方法で模倣し、実際に実行することにより苦手意識を低くすることができ、活用の気運を上げることができた。
- ③ 災害時を想定し、保護者へ児童・生徒を引き渡す訓練を小中が連携して同時時間帯に実施し、保護者が小学生を迎えに行ったあとに、中学校へ来るという訓練が定着し、混乱なく実施できた。サブファミリー校が同日に一齐に引き渡し訓練を実施することで、保護者や地域の防災に対する意識は高まっている。
- ④ サブファミリー校の展覧会作品交流展示、あいさつ運動の生徒会と児童との交流推進を図ることができた。小中学校のPTA校外委員・PTA役員と学校関係者・赤羽警察署が参加したファミリーの5校で生活連絡協議会を長期休業前（夏・冬長期休業日前）の年2回実施することにより、関係諸機関・地域・PTAと協力したファミリー間の連携行事で信頼関係がさらに深まっている。

### 4. 課題と改善の方向性

- ① 第1回学校ファミリーの日の前の運営委員会開催ができなかった。年度当初の日程変更はたいへん困難であるため、前年度から活動方針や内容を十分に検討する必要がある。
- ② きたコン活用について、さらに話し合いを推進し、日頃から効果的な活用方法を模索し、連携していくことの重要性を理解した。

# 桐ヶ丘中サブファミリー（桐ヶ丘中・桐ヶ丘郷小・袋小 ・八幡小・赤羽台西小）

## 1 交流・連携の方向性

桐ヶ丘中サブファミリーでは、北区小中一貫モデル事業の実施方策を踏まえ、これまでのサブファミリーの活動を生かして小中一貫教育の取組について、その方向性を検討し、本年度の方向性を決定した。

令和5年度は、「育てたい子ども像」を『何事にも意欲的に取り組み、社会の変化に主体的に対応しようとする子ども』とした。これまで桐ヶ丘中サブファミリーでは、小学校数や地理的な条件等を考慮し、各小学校で教科を絞り中学校との連携を図り生活指導や行事等を通じた連携をしながら活動を進めてきた。これまでの流れを踏襲しつつ、今年度は、「持続可能な開発のための教育【ESD】」を授業の中に盛り込み小・中学校が連携して進めることとした。これからの社会の変化に主体的に対応できる児童生徒の育成を図ることを目標とした。

## 2 具体的な活動

### (1) 調整や話し合い

○4月に5校の校長で行われた桐ヶ丘中サブファミリー運営委員会で、令和5年度の取組の方向性を「育てたい子ども像」を『何事にも意欲的に取り組み、社会の変化に主体的に対応しようとする子ども』に決定。研究授業は、引き続き中学校は毎年、小学校4校は2校ずつ隔年で研究授業を実施するという確認を行う。桐ヶ丘中サブファミリー5校内の連絡・調整や情報共有は、引き続き公開フォルダ内に桐ヶ丘サブファミリー専用フォルダを活用。

○第1回は袋小学校で全体会並びに研究授業を、第2回は桐ヶ丘中学校。第3回は桐ヶ丘郷小学校で研究授業を実施。

○分科会は、昨年度の反省を踏まえ、6分科会から以下、5分科会に変更。

- ・「学力向上（国・社・数・理）」
- ・「外国語・英語」
- ・「体力向上・健康増進（保健体育）」
- ・「健全育成（道徳）」
- ・「特別支援」

各分科会に各小中学校の教員が分散するようにしてメンバー表を作成し、年間を通して同じメンバーで研究授業を行った。各分科会の講師はサブファミリー内の校長が行う。3回の研究授業には北区委員会より指導主事が来校。全体会で指導講評をいただく。指導案検討会は、ここ数年来オンラインで指導案検討会を実施している。時間の確保や参加の様子から、この形で今後も進めていきたい。

### (2) サブファミリー全体での活動

#### ① 特色ある取組

「明るいいあいさつをしよう」、「はきものをそろえよう」、「じかんをまもろう」の3つ



を桐ヶ丘子ども憲章として掲げ、5校で取り組んでいる。また、あいさつ標語を毎年児童・生徒から募集し、生活指導主任がまとめて、ポスターを作成している。

## ②授業改善

5分科会（学力向上、英語、健全育成、体力向上、特別支援）ごとに目的と検討事項を明確にし、テーマに沿って意見交換と情報共有を行った。今年度は、すべての分科会が「持続可能な開発のための教育【ESD】」を推進。持続可能でよりよい世界を目指すSDGsに関連する授業を行った。それぞれの5分科会でどのようにSDGsに関連させるか熟考を重ね協議し指導案を作成し授業に臨んだ。

## ③地域との連携

不登校の情報交換には、地域の方々や子ども食堂の関係者などの情報も活用し児童・生徒理解を図っている。



# 3 成果と工夫した点

## ①成果

小・中学校の教員が1つの課題に向けて考えを出し合い、協議を深めていく中で、自身の校内だけでは気付けないことを知ることができた。また、あらためて小学校から中学校への9年間で児童・生徒を育成することの必要性を感じることができた。今後も互いの専門性を生かし、教員一人一人の自己研鑽を積み、今後の教育活動を高めていきたい。

## ②工夫した点

指導案検討会はオンラインで行った。意見交換や情報交換については、公開フォルダ内の桐ヶ丘中サブファミリー専用フォルダを活用した。また、分科会としてのテーマや授業のねらいについても視点を明確にし、手立ての有効性について意見交換や情報共有を行うことができたようにした。

# 4 課題と改善の方向性

「持続可能な開発のための教育【ESD】」を掲げSDGsに関する教育を実施。まだまだ未知数があり、教員側がSDGsの学びを深め指導力をあげていくことが必要と感じた。今後も研修等を重ね、教員の資質向上を図っていきたい。



## 神谷中サブファミリー（神谷中・神谷小・稲田小）

### 1 交流・連携の方向性

- (1) 「交流・連携教育」から「小中一貫教育」のフラッグシップ校へ。義務教育9年間の切れ目のない一貫した指導体制と校種の特性を生かした小中一貫教育を実践する。  
【学びのスタンダード構築から確立へ 北区立都の北学園の開校を前にして】
- (2) 三部会（教務・生活・研究）、教科、学年の各分科会を設置して、全教員がいずれかに所属し、教育カリキュラムの検討や授業研究を行う。
- (3) 義務教育9年間を見通したサブファミリー防災・減災教育や農業体験を実施し、地域防災の担い手や環境、食を意識した児童・生徒の育成をする。
- (4) 小・中学校教員間の交流を活発にするとともに、互いに尊敬の念を抱くことで、教員相互の信頼関係を深める。

### 2 具体的な活動

#### (1) 打合せや調整

- ① 4月10日（月）午後2時30分～4時30分（神谷中）「全体会」「三部会【教務部会・生活部会・研究部会】」「教科部会」「小小合同学年会」「小中一貫教育推進協議会」
- ② 5月12日（金）午後2時30分～4時（神谷小）「SF会議」「三部会」「小中一貫教育推進協議会」
- ③ 6月8日（木）午後2時30分～4時30分（稲田小）「SF会議」「三部会」「低・中・高学年部会」「小中一貫教育推進協議会」
- ④ 7月28日（金）午後1時30分～4時30分（神谷中）「全体会・講演」「三部会」「小中一貫教育推進協議会」
- ⑤ 9月11日（月）午後2時30分～4時30分（神谷小）「三部会」「低・中・高学年部会」「小中一貫教育推進協議会」
- ⑥ 10月13日（金）午後2時30分～4時30分（神谷中）「三部会」「教科部会」「小中一貫教育推進協議会」
- ⑦ 11月13日（月）午後2時30分～4時30分（神谷中）「三部会」「教科部会」「小中一貫教育推進協議会」
- ⑧ 12月18日（月）午後2時30分～4時30分（神谷中）「三部会」「学年部会」「小中一貫教育推進協議会」
- ⑨ 1月18日（火）午後2時30分～4時30分（神谷中）「三部会」「教科部会」「一貫教育協議会」
- ⑩ 1月25日（木）午後3時30分～4時30分（神谷中）「研究発表会リハーサル」
- ⑪ 2月1日（木）午後3時15分～4時30分（神谷中）「研究発表会リハーサル」
- ⑫ 3月7日（木）午後2時30分～4時30分（神谷中）「三部会」「全体会」「小中一貫教育推進協議会」

## (2) サブファミリー全体での活動

- ① 4月22日(土) 午前10時30分～11時20分「小中合同引き渡し訓練」各小中学校会場
- ② 5月16日(火) 午前8時30分～午後3時「田植え」ファームインさぎ山
- ③ 5月27日(土) 午前9時～11時30分「神谷小・稲田小運動会」(北区立北運動場)
- ④ 6月4日(日) 午前9時～11時30分「神谷中学校運動会」(北区立北運動場)
- ⑤ 6月20日(火)「学校ファミリーの日①」研究授業(稲田小学校)
- ⑥ 9月21日(木)「農業体験：稲刈り」(ファームインさぎ山)
- ⑦ 9月29日(金)「学校ファミリーの日②」研究授業(神谷小学校)
- ⑧ 10月4日(土)「神谷地区少年の主張発表会」(神谷中学校)
- ⑨ 10月28日(土)「神谷中学学習発表会」(神谷中学校)
- ⑩ 「サブファミリー標語展」…「命」「愛」「人権」「あいさつ」をテーマに児童・生徒全員から標語を募集。11月に最優秀作品12点を選び、ポスターを作成し、校内及び町会・自治会の掲示板にて展示
- ⑪ 11月2日(木)「防災・減災教育」(稲田小学校) 参加
- ⑫ 2月2日(金)「北区学校ファミリーの日③」研究授業・研究指定校発表(神谷中学校)

## 3 成果と工夫した点

- (1) 北区立都の北学園カリキュラム検討委員会の三部会組織で、3年間検討してきた内容を研究紀要にまとめることができた。また、研究の過程を北区教育委員会研究指定校研究発表会で披露し、区内、区外の方々に広く伝えることができた。
- (2) 年間を通して、学校間(小中、小小)連携を取り入れた研究授業や学校行事を実施したことにより、各学校の強みや連携の意義について教員間、児童・生徒間の理解を深めることができた。また、都の北学園の開校に向けてその経験をカリキュラムの作成に活用することができた。
- (3) 農業体験において、小中の連携をさらに強めるために今年度は小学生と中学生が混在するグループを組ませ、協働させる取り組みをおこなった。そのことにより、中学生と小学生の仲が今までになく深まり、都の北学園での前期課程と後期課程の連携の一つのあり方を見いだすことができた。

## 4 課題と改善の方向性

- (1) 来年度から都の北学園において様々な行事や活動での異学年交流を進めていくためには、活動担当教職員同士の緊密な連携や、他の教職員との共通理解がさらに必要となる。そのため、「言わなくても理解できるだろう」という考えを捨て、「児童・生徒、教職員の誰もが理解しやすいものになっているか」という考えで、活動を計画していく必要がある。
- (2) 北区立都の北学園の開校に直結する資料として研究紀要に教育カリキュラムをまとめたが、実際に運用していくためにはまだ不十分な点がある。開校準備を円滑に実施していくために、さらに詳細な計画を小中が連携して立案していく。その作業を行う中で、サブファミリー校3校職員の一体感を一層深め、強固なものにしていく。

## 浮間中サブファミリー（浮間中・浮間小・西浮間小）

### 1. 交流・連携の方向性

テーマ 「主体的に学ぶ子どもの育成 ～学力の定着・向上を図る授業改善～」

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を小中で実践することで、学力の定着・向上を図る。また、小中9年間で一貫した学習規律や生活習慣等の確立を進める。

- (1) 授業研究（8分科会 小学校各学年＋特別支援学級＋養護）
- (2) 合同行事（引渡訓練、地域清掃、特別支援学級交流会、卒業生のお話を聞く会）
- (3) 児童・生徒理解（中1ギャップ連絡会）

### 2. 具体的な活動

#### (1) 調整や話し合い

- ・管理職、教務主任、生活指導主任、研究主任が研修内容や日程を調整し、情報共有することができた。
- ・サブファミリーの日に実施する授業研究では、サブファミリーのフォルダを活用し3校の教員による指導案検討会をサブファミリーのフォルダを活用して実施した。
- ・引渡訓練は、5月27日（土）に3校合同で実施した。毎年のように3校の時程が合わなかったが、今回は教務主任が時程を調整し、トラブルはなかった。地域清掃は、3校の都合で別日の実施となった。
- ・中1ギャップ連絡会は、ファミリーの日に実施した。

#### (2) サブファミリー全体での活動

コロナ対策が緩和され、サブファミリーの合同行事はすべて実施することができた。ファミリーコンサートは、令和6年度実施することにした。

- ・学校ファミリーの日・・・6月14日（水）西浮間小学校  
9月27日（水）浮間中学校  
1月24日（水）浮間小学校  
ファミリーフォルダやC4t hを活用して指導案検討会を行った。
- ・中1ギャップ連絡会・・・ファミリーの日（研修会后）
- ・小中一貫学力向上部会・・・夏季休業中に作業を行った。  
少人数で小学校と中学校の教員が集まることができ、有意義な連絡会となった。
- ・地域清掃（PTA行事）・・・各校で計画・実施  
毎年PTAとの合同行事としている。例年、3校とも夏季休業日に実施していたが、昨年度から各校ごとに日にちを設定し、地域清掃を実施した。
- ・小学生見学会・・・11月10日（金）  
浮間小学校と西浮間小学校の6年生が浮間中学校に集まり実施した。新校舎の見学は、中学生になる心構えを自覚させる良い機会となっている。
- ・ファミリーコンサート・・・2月（3校一斉の土曜授業の午後）  
5年前に新しく始めた合同行事である。浮間地区青少年委員会の協力を受け、多くの地域の方から好評をいただいた。コロナ禍で中止となり、令和6年度の実施に向けて検討を始めている。

### (3) 特別支援学級交流

今年度も教育総合相談センター主催による新入生・転入生を迎える会が2会場での分散開催となった。他の学校との交流も深まり、有意義な行事となった。

また、令和3年度から実施している浮間小学校・浮間中学校2校による交流行事も恒例となり、児童・生徒が楽しみにしている行事となっている。浮間小学校先生方にとっては、卒業生の成長の様子がわかり、小中一貫教育に大変役立っている。

### (4) 卒業生のお話を聞く会

浮間小学校と西浮間小学校を卒業した浮間中学校の3年生が、母校の6年生に中学校生活を具体的に説明する会は3回目となった。(今年度は、3月1日実施予定)

小学6年生の不安な気持ちを解消するため、中学3年生がきたコンを活用してスライドを作成し説明を行った。6年生にとっては、中1ギャップの解消につながり、小学校の先生方には卒業生の成長が見られ、楽しみにしている行事として定着している。

## 3. 成果と工夫した点

今年度のサブファミリーの活動は、3回とも授業公開後に分科会を設定した。少人数の分科会では、児童・生徒の様子や指導方法、きたコンの活用等、小中一貫教育の視点に立った活発な意見交換を行うことができた。

## 4. 課題と改善の方向性

- ・来年度は、授業面での一体化（浮間スタイル）と生活面での一体化（浮間スタンダード）を考えていきたい。
- ・小学校6年間で培ってきた授業規律や生活のルールなどを中学校側が引き継ぎ、義務教育後半の3年間で、保護者や地域・学校が目指す児童・生徒の育成をする。
- ・中1ギャップ連絡会を充実させ、入学前の聞き取りのみに頼らず、学級編成の構想や受け入れ準備を入念にする。
- ・持続可能な連携のために、小中双方の意思や考え方の共有を可能にするシステムを構築していく。
- ・年3回の対面の交流だけでなく、日頃の情報交換や共有事項をICTの活用を通して実施する。3校の教育活動がお互いにわかるように、サブファミリーのフォルダを活用し、学習面や生活指導面、年間行事予定表、月行事予定表など、様々な案件の情報共有をする。
- ・令和6年度に開校する都の北学園の取組を参考にし、小中一貫教育に根ざした教育活動を今後とも継続していく。
- ・浮間地区の不登校児童・生徒は、滝野川分庁舎にある適応指導教室（ホップステップジャンプ教室）に通っている。赤羽での乗り換えがあり往復1時間以上かかり、負担が大きい。そこで、浮間子ども・ティーンズセンターの施設を利用して、不登校児童・生徒の居場所づくりを浮間サブファミリーとして検討したい。

## 田端中サブファミリー（田端中・田端小・滝野川第四小）

### 1. 交流・連携の方向性

- (1) 中学校区全体の教育力を高めるため、学校・家庭・地域の協力体制を確立し、豊かな心、健やかな体、確かな学力を育てる活動を推進し、児童・生徒の健全育成を図る。
- (2) 中1ギャップ解消のために、小学校で学んできた学習や活動を中学校でも継続・発展させ、小・中9年間の教育の接続・一貫を目指す。
- (3) 学校文化の異なる多様な人間関係を学び、対人関係調整力の向上や、自己実現を目指して広い視野やたくましい心を身に付けるように努める。
- (4) 年3回の「学校ファミリーの日」には、3校の全教員が授業を参観し合い、小・中9年間の一貫した教育を見通し、田端中サブファミリー校で目指す子ども像や各校の教育実践について意見交換や指導方法の改善を図るよう推進する。

### 2. 具体的な活動

#### (1) 調整や話し合い

①第1回連絡会（田端小学校） 令和5年5月9日（火）15：30～

・令和5年度の日程、担当校の確認

②第2回連絡会（滝野川第四小学校） 令和6年1月24日（水）16：15～

・令和6年度の日程調整、令和6年度の担当校の確認

	分科会名
1	算数・数学、理科
2	外国語活動、外国語
3	実技・芸術 (図工・美術、音楽、技術、家庭)
4	体育・保健体育、養護
5	NIE推進（国語、社会） 【担当：滝四小】
6	読書活動推進（国語） 【担当：田端小】
7	特別活動推進（道徳） 【担当：田端中】

#### 【分科会の進め方】

- ①メンバーは各学校で編制し、年間、同分科会に所属することを原則とする。
- ②分科会の司会・記録は、担当校が行う。教員が不足する場合は、他校に手伝いを依頼する。
- ③授業公開では、所属する分科会の授業を参観する。分担は各校で調整する。
- ④分科会では、視点を明確にした話し合いを行い、各校における授業改善に役立てる。
- ⑤5～7の分科会は、各教科の視点も取り入れた推進をする。

- ・研究テーマ「対話的・主体的な学びをつくる～児童・生徒のかかわり合いを整えて～」  
児童・生徒の「かかわり合い」を豊かにして、安心を醸成し、主体的・対話的で深い学びをつくっていくこととして研究テーマを設定し、各分科会ごとに小中連携による研究を進めた。
- ・読書活動推進分科会が中心になって進めている「たばたの100冊」については田端中サブファミリーで連携し、「特色ある教育活動等支援事業」として推進する。

## (2) サブファミリー全体での活動

①第1回「学校ファミリーの日」(会場：田端中学校) 令和5年6月21日(水)

内容：授業公開(理科、英語、技術、体育、社会、国語、道徳)分科会、全体会

②第2回「学校ファミリーの日」(会場：田端小学校) 令和5年9月27日(水)

内容：授業公開(算数、外国語、音楽、体育、国語〔2〕、道徳)、分科会、全体会、講演会

講師 元千葉県公立中学校長・跡見女子大学非常勤講師

早稲田大学大学院生

生貝 博子 先生

演題「児童・生徒のかかわり合いを大切にしたい授業づくり」

③第3回「学校ファミリーの日」(会場：滝野川第四小学校) 令和6年1月24日(水)

内容：授業公開(理科、外国語、音楽、体育、国語、道徳)、分科会、全体会

### ④その他

・小6体験入学 令和5年9月8日(金)〔台風の影響により中止〕

→代替えとして、田端中学校土曜授業日 令和5年11月18日(土)に田端小学校6年生は保護者と任意参観、滝野川第四小学校は校外学習として担任引率による参観を実施。

・小中連携あいさつプロジェクト 令和6年1月25日(木)、26日(金)

小学生登校時刻にあわせて、サブファミリー小学校校門にて田端中学校生徒会があいさつ運動を実施。

## 3. 成果と工夫した点

(1) 第2回ファミリーの日より、研究テーマに沿って指導案の形式を変更して授業を行った。協議会でも児童・生徒の関わり合いを整えるための教科の工夫、ポイント、指導法について視点を絞って意見交換を行い、学びを深めることができた。また、講演会では具体的に日々の教育活動に生かせることを具体的にご教示いただくことにより、特に若手教員にとっては、よい学びの機会とすることができた。

(2) 読書活動推進事業として令和4年度にスタートした「たばたの100冊」については、図書室の環境整備のほか、具体的な活用について情報交換することにより、さらなる活用・充実に向け、見通しをもつことができた。

(3) NIE教育活動推進事業として、前年度に引き続き、各校の取り組みや成果について情報共有し、新聞に触れる機会を増やしながら活用を進めることができた。

(4) 特別活動推進事業として、中学校の生徒会が中心となり、「あいさつ運動プロジェクト」を継続実施した。小・中学生が直に交流を深める機会とすることができた。

## 4. 課題と改善の方向性

(1) 読書活動推進事業では「たばたの100冊」について、出版状況、地域性、関連シリーズや作家に着目した選書、図書室の環境整備を進め、小中の交流推進を図る。

(2) NIE教育活動推進事業については区主催「新聞大好きプロジェクト」に関わる情報交換のあり方等を見直し、分科会設定についても検討する。

(3) 特別活動推進事業では児童会・生徒会活動の活性化を進め、交流を図る。

## 滝野川紅葉中サブファミリー

(滝野川紅葉中・滝野川第二小・滝野川第三小  
・谷端小・滝野川もみじ小・たきさん幼稚園)

### 1 交流・連携の方向性

- (1) 5校1園で児童・生徒の発達段階における学習経験や学習特性についての理解を深め、実態を踏まえた学習改善の方策についての研究を深める。
- (2) 「主体的に学び、進んで表現する児童生徒の育成」を共通の授業研究テーマとし、教科ごとによる授業交流と情報交換等を行い、中1ギャップの解消と教員同士の連携を深め、授業改善の視点を共有化して授業実践に取り組む。  
また、育てたい子ども像を
  - ・地域の一員として、進んで貢献しようとする子ども
  - ・自己肯定感をもち、自他のよさを認め合える子ども
  - ・基本的な生活習慣を身に付け、学習意欲のある子ども と設定した。
- (3) 「子供たちがどのように学ぶか」という視点に立って、授業設計を深めることにより、一人一人のつまずきに対応したきめ細やかな指導の充実を目指す。
- (4) 伝統野菜の「滝野川ごぼう」の栽培や、標語の募集、滝野川地区の特色ある教育資源を活用するとともに、地域内の東京国際フランス学園との交流を通して国際理解教育を充実させ、地域に誇りをもつ活動や地域とかかわる活動を行う。

### 2 具体的な活動

- (1) 調整や話し合い
  - ・年度当初：5校1園の校園長・本年度の活動計画、年間指導計画の確認
  - ・5月11日：第1回運営委員会（小校長・各校副校園長・教務主任）・活動方針・実施計画、部会の組織、運営方法、構成員の確認等
  - ・随時：教務主任・生活指導主任・方針の共通理解、日程調整等
- (2) ファミリー全体での活動
  - ①授業研究・授業交流  
授業交流は、国語、社会、算数・数学、理科、外国語活動・英語、保健体育・養護、専科（音楽、図工、美術、技術・家庭）の7分科会で、滝紅中スタンダードの実践を視点とした指導方法の工夫改善について研究を深めた。
    - ・第1回学校ファミリーの日（6月14日）は滝野川紅葉中学校にて授業研究
    - ・第2回学校ファミリーの日（9月27日）は滝野川もみじ小学校にて授業研究
    - ・第3回学校ファミリーの日（1月24日）は谷端小学校にて授業研究第1回、2回は授業を実際に参観し、その後、幼・小・中の教員で分科会ごとに協議を行い、SF各校の校長・副校長を講師に配し、指導・講評があった。  
第3回は、授業後に全体会と講演会を開催した。  
第2回・第3回は事前の指導案検討を長期休業中に実施した。
  - ②体験授業
    - ・1月11日・サブファミリーの小学6年生を対象に、新入生体験授業を実施。



生徒会役員による中学校生活の紹介、中学校教員による授業体験を行った。

③国際理解教育（東京国際フランス学園ーリセとの交流）

- ・滝野川紅葉中学校・双方に行き来し、フランス語の学習体験・書道体験などを行った。
- ・滝野川第二小学校・滝野川もみじ小学校・4年生がリセの児童とフェンシング体験。各校で歌も披露し交流を行った。

④「滝野川ごぼう」等の栽培

- ・サブファミリー全校で滝野川ごぼうの栽培
- ・緑のボランティア等地域の方々と連携し、児童生徒の活動を支援できる体制を作った。今年度も、江戸東京・伝統野菜研究会代表大竹道茂氏に各校で授業や講演を行っていただいた。滝野川第二小学校では、昨年度から栽培する箱を改良し、多くの収穫を得た。滝野川紅葉中学校は、今年度 滝二小から紹介いただいた地域の方（卒業生の保護者でした）にご指導いただき、これまでにない太さのごぼうが収穫できた。たきさん幼稚園では、収穫の喜びと味わう楽しさの二つを得た。



⑤キンボール大会

- ・11月18日・サブファミリーの小中学校5校それぞれの保護者・教員でチームを組み、キンボール大会を実施した。今年度はリセも参加し、今回初めて競技に触れる参加者もいる中、各校複数チームで参加し、盛り上がりを見せた。

### 3 成果と工夫した点

- (1) 授業研究を通して、発達段階における各教科の効果的な指導のあり方やそれぞれの発達段階で身に付けるべき学習規律について探究した。授業の目的や目的達成のための手段の検討など多くの成果を収めた。
- (2) 4月に実施した北区基礎・基本調査の1学年国語、算数、理科、社会の結果を基に、「つまずきゼロプランシート」を作成し、小中学校で共有することで、学習のつまずきを確認し、そのための足場かけを検討・確認することができた。
- (3) 研究授業及び研究協議会は、開催方法を探りながらの開催であったが、分科会ごとに、小中9年間（教科によっては幼稚園を含めて11年間）を見通した各教科における効果的な指導の在り方を探究することができた。

### 4 課題と改善の方向性

- (1) 今後も分科会主体の研究を続けるか、授業交流の新しい方法を考えていくか検討が必要である。
- (2) サブファミリーとして、地域の特色や特性を生かした小中一貫教育の実現に向けた研究授業や交流を一層充実させる必要がある。
- (3) 新学習指導要領全面実施に合わせて「主体的・対話的で深い学び」の視点から指導方法や評価方法を工夫改善して実施していくことが、今後の課題である。

# 飛鳥中サブファミリー（飛鳥中・滝野川小・西ヶ原小）

## 1. 交流・連携の方向性

今年度は、昨年度まで継続してきた柱を見直し、「授業研究」と「児童・生徒交流」の2つを柱として、小中一貫教育の推進を充実させるよう、連携を深めた。



### 育てたい子供像

- 1 意欲的に学習に取り組み、自ら学力を伸ばす子供
- 2 自分の良さを知り、他者を思いやり協力し合う子供
- 3 明るく元気に進んで運動する子供
- 4 地域に生き、地域を愛し、地域を支える子供

## 2. 具体的な活動

### (1) 調整や話し合い

- |                         |          |
|-------------------------|----------|
| ①令和5年5月12日（金）第1回運営委員会   | 於：飛鳥中学校  |
| ②令和5年6月14日（水）全体会后、運営委員会 | 於：滝野川小学校 |
| ③令和5年9月27日（水）公開授業後、分科会  | 於：西ヶ原小学校 |
| ④令和6年1月24日（木）全体会后、運営委員会 | 於：飛鳥中学校  |

### (2) サブファミリー全体での活動

- |                             |                          |
|-----------------------------|--------------------------|
| ①6月14日（水）公開授業・分科会・全体会       | 於：滝野川小学校                 |
| ②7月 8日（土）小中連携合同引き渡し訓練       |                          |
| ③8月                         | 小中連携「つまずきゼロプラン」会議：書面にて実施 |
| ③9月27日（水）小中連携 TT 授業・分科会・全体会 | 於：西ヶ原小学校                 |
| ④12月8日（金）新入生体験入学            | 於：飛鳥中学校                  |
| ⑤1月24日（水）公開授業・分科会・全体会       | 於：飛鳥中学校                  |



～小学校と中学校の TT 授業風景～

### (3) 各分科会の取り組み

#### 【授業研究】

小中連携で TT 授業を行った（英語科・音楽科）。また、飛鳥中研究授業においては、「協働」をテーマとして、教科の枠を越えた「コラボ授業」を展開した。

## 【児童・生徒交流】

### ①保健

新入生体験入学において、飛鳥中の保健委員会が「たばこの害」についての発表を行った。

### ②作品交流

美術（図画工作）、家庭科、国語科（書写）の作品交流を行った。

### ③図書交流

飛鳥中の図書委員会を中心に、POP 交流などを行った。



飛鳥中学校のコラボ授業風景（左から国語×数学・自立活動×家庭科・社会×音楽）

## 3. 成果と工夫した点

- (1) 飛鳥中の校内研修のテーマである「協働する学びのある授業～多様性を生かして～」をもとに、教科の枠を越えたコラボ授業を行った。小学校も今後は、高学年で教科担任制が導入されることを踏まえ、取り入れていきたい活動であり、分科会も活発に意見交換が行われた。
- (2) 小中連携の TT 授業で、飛鳥中の教員が小学校の授業に入って TT を行ったが、子供たちにとっても教員にとっても刺激のある有意義な授業となった。
- (3) コロナが 5 類になり、様々なことがコロナ以前に戻りつつある一年間だった。研究授業だけでなく、新入生体験入学、あすか祭りといった行事においても、活発に小中の交流が行われた。

## 4. 課題と改善の方向性

- (1) 次年度も小・中学校教員による TT 研究授業の工夫を検討していく。
- (2) コロナ禍で中止になっている連携を少しずつもとに戻していけるように再検討する。
- (3) 今年度までは、サブファミリーの柱を「学校図書館活用教育」とし、図書交流を活発に進めることを目標としていたが、次年度以降は、小中連携をより一層深めていくため、テーマを「連続性のある主体的・対話的で深い学びのカリキュラムづくり」とし、TT 授業をはじめとし、9 年間をとおした学びを意識させていく。

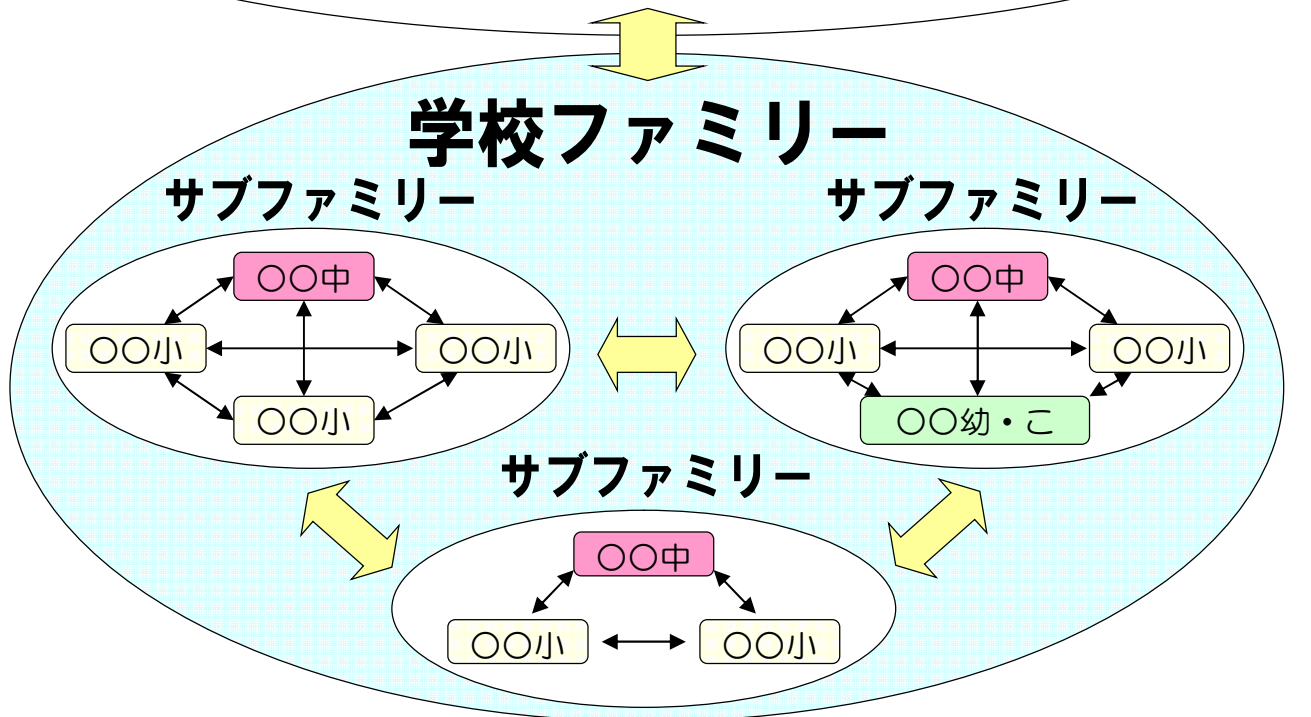
# 北区学校ファミリー構想概要

## 1 北区学校ファミリーとは

北区学校ファミリーとは、中学校1校といくつかの小学校・幼稚園・こども園からなる近隣複数校のネットワークです。そして、1校だけではできないことを複数校が協力して実践し、質の高い教育を実現しようというものです。（下イメージ図参照）

### 《学校関係者・地域の関係諸機関との連携・協力》

- 町会・自治会、青少年地区委員会、児童委員、地域振興室 など
- 高校、大学・大学院、図書館 など
- 児童館、保育園、福祉保健センター、教育相談所、児童相談所 など
- 警察署、消防署、高齢者施設 など
- 教育ボランティア、ボランティア団体、民間活動団体 など



「北区学校ファミリー構想」は、次のような状況を踏まえて平成15年6月に策定されました。

### 教育課題

- ・ 子どもたちの学習意欲や学力の低下への懸念、生活習慣の変化により直接体験・生活経験の減少、人とかかわる力が低下、体力の低下、中学生・高校生では読書時間の減少
- ・ 地域社会の連帯感の弱まり、就労状況の変化、核家族化により、子育て自体に困難さを生じている



学校の小規模化の中では、個々の学校が単独で新しい様々な課題に対応するには限界

### 改善策

- ・ 地域の学校として同校種間の連携や異校種間の連携・接続、地域の教育資源の活用方法などに工夫・改善を加えた、北区の新しい教育を推進していく



## 2 北区学校ファミリーのねらい

### ①自己革新し続ける新しい学校づくりをめざします

各学校が「開かれた」存在へと変化し、さまざまな外部機関や他校と「結ぶ」柔軟性をもち、教職員、保護者、地域住民も「ともに学び合う」という体制をつくります。そして、常に新しい教育課題に挑戦し、自己革新し続ける新しい学校づくりを目指します。

### ②子どもたちの教育環境を整備します

学校の基盤となる「地域」の拡大を図り、その利点を生かして子どもたちの学びをより豊かなものとしします。

### ③地域の教育・子育てプログラム全体の改善・充実を図ります

学校間のネットワークだけでなく、学校と幼稚園、こども園、保育園、児童館などとの連携や学校と家庭・地域社会との幅広い連携を生み出し、広域的な地域エリアのなかに、教育・子育てのネットワークを築き上げます。

## 3 学校間連携による5つの効果

### ①教育課程の面

- ・ 共同のカリキュラム開発、多様な学習活動
- ・ 地域情報の共有、地域に根ざしたプログラム開発

### ②学校運営の面

- ・ 学校間の組織的な連携
- ・ 指導体制の充実（小規模化の中で学校の教育力の維持）

### ③子どもの学びの面

- ・ 基礎的、基本的な事項の確実な定着
- ・ 就学前教育の充実による小学校入学に対する不安の解消
- ・ 小中の交流による相互理解
- ・ 小学校高学年の中学校進学に対する不安の解消

### ④教員の資質向上の面

- ・ 子どもや地域の実態に応じた教員研修の実施
- ・ 授業交流や合同研修会による異校種の学習内容、指導法についての共通理解
- ・ 小中9年間を意識した的確な子どもへの援助・指導

### ⑤健全育成の面

- ・ 広い地域での見取り、情報収集力が高まり、関係機関との連携による質の高い対応
- ・ 保護者や地域との信頼関係の深まり

## 4 具体的活動

学校ファミリーによる学校間連携の内容は次の8項目になります。

- ①情報交換
- ②授業交流（幼稚園、こども園、小学校、中学校）
- ③教員研修の合同実施
- ④共同の教育課程（カリキュラム）の開発
- ⑤学校運営面での連携・協力
- ⑥学校行事での交流
- ⑦関係諸機関、地域の人との交流をもとにした教育活動の推進
- ⑧その他の連携・交流

各地域における取組みは、地域の課題などに応じてこれらのいくつかを選択するかたちになります。

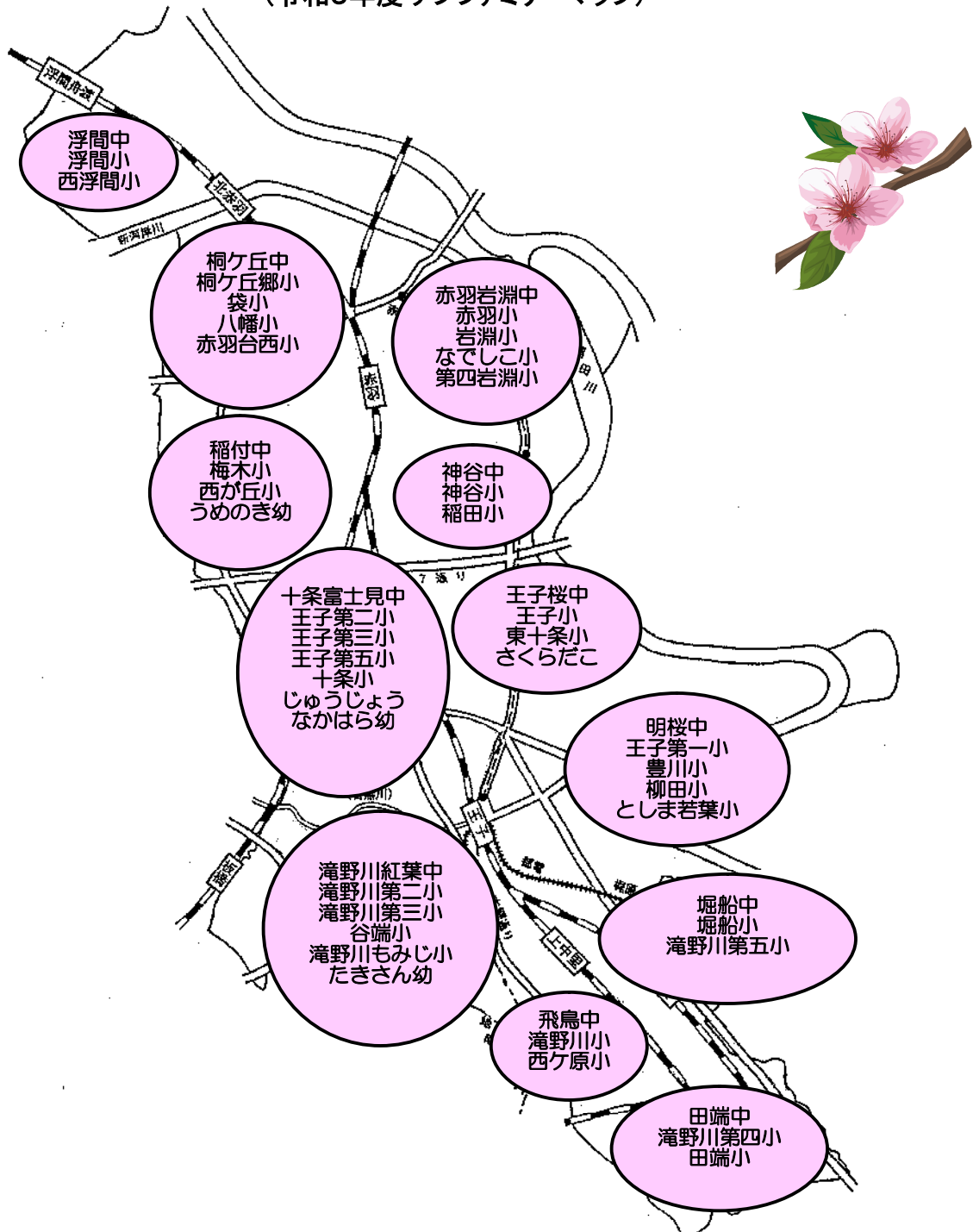
### 「北区学校ファミリーの日」について

北区独自の教育システムである北区学校ファミリーについての理解を深め、啓発を図るため、「北区学校ファミリーの日」を定め、各サブファミリーにおいて研究授業、授業交流、交流事業など、北区学校ファミリー事業を推進し、質の高い教育を目指します。

## 5 エリアの設定

学校ファミリーでは、中学校1校といくつかの小学校・幼稚園からなる組み合わせを「サブファミリー」と呼びます。

(令和5年度サブファミリーマップ)



## 6 今後の目標

学校ファミリーのねらいは、単に「学校改革」にとどまらず、「地域の再生・変革」にまでつながることが重要です。そのために、学校をより開かれた存在とすること、教育ボランティア導入など地域との連携の望ましい姿を研究して子どもの学びに生かすことを目標とします。

## 令和5年度北区学校ファミリー事業報告書

令和6年3月発行

発行 北区教育委員会事務局 教育振興部 教育政策課

東京都北区滝野川2-52-10

電話 03-3908-9279

FAX 03-3908-1265

刊行物登録番号

5-1-149